

# 国十三回会議院建設委員会議録第二十一号

昭和二十七年四月三日(木曜日)午前十時三十七分開会

出席者は左の通り。

委員長

廣瀬與兵衛君

理事

赤木正雄君

田中一君

小川久義君

石川榮一君

楠瀬常猪君

島津忠彦君

深水六郎君

徳川宗敬君

前田櫻君

松浦定義君

東隆君

上林山榮吉君

瀬戸山三男君

鶴井篤君

菊地璋三君

衆議院議員

事務局側

常任委員会専門員

常任委員会専門員

本日の会議に付した事件

○特別土じよう地帯災害防除及び振興臨時措置法案(衆議院提出)

○委員長(廣瀬與兵衛君)只今より建設委員会を開会いたします。先づ特殊じよう地帶害防除及び振興臨時措置法案を議題に供します。

○衆議院議員(上林山榮吉君)只今議題となりました特殊土じよう地帶災害

防除及び振興臨時措置法案について、まず提案者より御説明を願います。

そこで法案の内容を更に御説明申上げますといふと、第一條にこの法案の目的を書いてあります。特殊土壤地

最初から世話ををして来たものといたしまして、且つ又提案者を代表いたしましたとして提案理由の説明をいたしたいと思います。

御承知の通り、本法案の概要についてはすでに有志の委員の各位に非公式に説明を申上げ、委員各位の建設的な御援助を得ておるのであります。が、この法案の概要をこれから説明をいたしたいと思います。

提案の理由を簡単に説明申上げます。この理由を簡単に説明申上げます。

帶に對しまして先ほど申上げました理由によりまして、適切な災害防除及び農地改良対策を樹立し、これに基く事業を実施することによつて特殊土壤地帯の保全と農業生産力の向上とを図ることがその根本的目的であります。第二條はここに明記してある通り、特殊土壤地帯の指定をいたそとをするものでありまして「内閣總理大臣は、特殊土じよう地帶対策審議会の意見をきいて、しばく台風の来襲を受け、雨量がきわめて多く、且つ特殊土じよう」、先に説明申上げましたものであります。が、「特殊土じようでおおわれた地形上年年災害が生じ、又は特殊土じようでおおわれているために農業生産力が著しく劣つている都道府県の区域の全部又は一部を特殊土じよう地帯として指定する」というのであります。そして第三條に示してある通り、内閣總理大臣は、特殊土壤地帯対策審議会の意見を聞いて、先ほど第一條で説明申上げました通り、その目的を達成するため必要な特殊土壤地帯における災害防除及び農地改良に関する事業計画を定める、というわけであります。そこで第四條に基いて、事業の実施をやるわけであります。「前條第一項の事業計画に基く事業は、この法律に定めるものの外、当該事業に関する法律、」これには命令を含むわけであります。それが「法律の規定に従い、國、地方公共団体その他の者が実施するものとすが、会長が会務を総理するとか、専門事項を調査審議するために審議会に専門委員を置くとか、それく規定期にたしているのであります。

更に適正を期するためには特殊土壤地帯審議会の設置をいたすのであります。が、審議会の権限その他について、第五條第一項に規定する事項の調査審議に関し必要があるときは、関係のある行政機関、地方公共団体その他の者に対し、資料の提出を認め、又は報告をさせることがであります。更に関係地方公共団体等の意見の申出ができるよう規定をいたしました。それは第八條にあります通り「関係地方公共団体その他の者は、第三條に以て組織いたしますが、ここに列挙してありますように、地方自治会は内閣總理大臣が任命する委員十九名を以て組織いたしますが、ここに列挙してありますように、地方自治官、運輸事務次官、建設事務次官、経済安定本部副長官、都道府県知事、都道府県議會議長、市町村長、市町村議會議長、学校教育法又は旧大学令による大学の教授、農業者の団体を代表する者、こういうことになつております。そこで、その任期は二年といたしてあります。なお審議会の構成についてはここで示してあるのでござります。会長を置くとか、あるいは委員は互選であるとか、会長が会務を総理するとか、専門事項を調査審議するために審議会に専門委員を置くとか、それく規定すべきである」と規定したのであります。

次に特別な助成の方法を講ずるために、第十條に「國は、第三條第一項の事業計画による事業を行ふ地方公共団体その他の者に対し、地方財政法第十六條の規定に基く補助金を交付し、必要な資金を融通し、又はあつ旋し、その他必要と認める措置を講ずることができる」と規定したのであります。

上げた通り、本法案は特殊中の特殊の事態を目標といたしまして、この方面の災害の防除と而も低生産地の向上といたことを目的として立案をしたのであります。何とぞ御理解ある御審議を願いまして早急に本法案が参議院を通過し、これら関係国民の期待に副うことができるように、提案者といたしまして、特にお願ひを申上げる次第であります。

○委員長(廣瀬與兵衛君) 御質疑のおありのかたは順次御発言を願います。

○赤木正雄君 大正の十年頃から今日まで高知県の災害状況、殊に幡多郡の災害状況の調査を少し……。それを参考に、この審議をする前に一応調べて見たいと思いますから、その調査書類を関係官庁からお取寄せを願います。

第二條に「花崗岩風化土」とあります。が、この花崗岩風化土は、中國地方とその他近畿地方の花崗岩の風化土とどこが違いますか。この物理的の結果をお示し願いたいと思います。

○衆議院議員(瀬戸山三男君) 只今赤木委員の御質問であります。が、この第二條に「花崗岩風化土」というのを挙げておりますのは、実は専門家の赤木先生は十分御承知のはずと思ひますので、ここに挙げておりますのは、花崗岩風化土、まあ中国地方では真砂、これを「まさ」と称しておるますので、そこに挙げておりますのが、日本の国土の調査、特に土質の調査というものは、まだ明確になつておらないというのが専門家の御意見であります。が、日本は、花崗岩風化土、まあ中国地方ではあります、そういう地域があるということで、実はこれは安本当局、農林省、建設省の専門家を集めたのであります。

ありまするが、全国にかよな特殊の、特に立法してやらなければならぬいという土壤を完全に調べた資料がない、まだそこまで行つておらないといふ状況であるそうであります。そこで問題になりましたこの花崗岩風化土、先ほど申上げました真砂と称するようなところが問題になつておりますので、そういうところは審議会によつて必要ありますとされるときに指定をしてもらひ、こういう制度にいたしたいといふ立法をいたしておるわけであります。そういうふうに御了解を願いたいと願います。

などを研究いたしておるような実情でありますて、まだ具体的に日本全国の国土、特に土質の調査というものが完成いたしておりませんので、そういうところを勧めいたしまして、ここには特殊土壌といつつの概念の内容を、シラス、コラ、ボラ、アカホヤ等、これは明確になつておりますので、火山噴出物、それから先ほど申上げました花崗岩風化土という、こういう具体的に例示をいたしましたが、こればかりに限るということは、現在調査が完成いたしておりますんときには適切でありませんので、そこでその他特に浸食を受けやすい他の土壌といたしておられますので、将来研究、調査の結果、この法律を適用する必要があると審議会において決定指定されましたならば、この法律の中に包含される、こういう見解の下に立案いたしておるわけですから、御了承を願いたいと思います。

特殊土壌、こういうような問題について実地に見聞され、学問的にも又研究されておられる点に対しまして、私ども関係者といたしまして心から敬意を表すのであります。そこで我々といたしましては、安本等が二、三年前から研究をした結果と同時に、私どもが常に見聞をし、災害等に悩まされておる体験等からいたしまして、一部専門家にも専門的意見を聞いた上で、この法案を提出したのであります。が、この法案の審議の途中において、花崗岩風化土というようなものについては、これは特殊土壌のうちで最もわかりやすい、而も常識的にも類似しておりますから、こう程度のものまでは一応入れたらどうかと、こういふような意見もありまして、それに類似したものとしてこれを取入れたのであります。私どもの狙いとするところは、重点は飽くまでもシラス、ボラ、コラ、アカホヤというこの特殊土壌、而も政府も専門家も相当に調査し、認めているところのこの状態において、この法案を出したのであります。ただ将来これに類似したものがあるといつしましても、無限にこれを擴大する意思はないのでありますから、若しそういう時期が来たならばそのときには擴大しなければならないという状態になつたならば、私どもは審議会があるなしにかかわらず、根本的な又立法措置を講じて行くと、こういうふうにして頂きまして、当面緊急な特殊な状態だけをこの法案の対象としたいと、こういふのが私どもの提案者の考え方でありますので、でき得べくんば一つ赤木委員におかれましても御賛成を願いたいと、こ

○赤木正雄君　上林山先生のお話で言わんとされている本旨はわかつております。併しこういう字句が明文化されておる以上は非常に疑点が残えて来るのでないか。先ほど申す通りに花崗岩風化土、これは御承知の通りに中国地方、近畿地方には実に広大な面積があります。では亘つて、又その他の浸食地或いは第三紀層の土地は、浸食を受けやすい土地はたくさん日本にはあります。ありますから今お話を真意に触れないところのものが明文化してあるということをはつきり申上げねばならんのであります。まあそれはそういうふうな観点として、場合によつては先ほど申した林業試験場の土質検査している人なんかの意見も一応徴さしておられますか承わりたい。ほうがいいかと、こう思います。

用いたしますが、私どもが素人で現地におひつて考えておりますことは、先ず山腹の砂防や溪流砂防、多くの土砂が崩壊して流失いたしまして、河川を泥濁いたしますから、河川の改修、道路においても従つて側溝を堅固にするとか、それから農地におきましては排水を計画して排水をよくする、農地の保全の工事をするとか、こういうことでこの地域の災害の防除をいたしたい。こういう考え方でおるわけであります。御承知の通りに終戦實際になりまして殆んどの平地林その他を伐採いたし、その他に食糧増産計画のために多くの土地を開墾いたしたのですけれども、これは食糧増産計画の急なる追われまして、殆んど無計画に開墾いたして、特殊の土壤の上の開墾だという繪念がなくて、広大な台地を開墾した。従つてそれに対する排水といふこととの計画が全然無計画になつておりますので、この特殊の土壤の関係から地下水帯といふののために、又表流水等のために思わざる厖大なる崩壊を各地に発生いたしまして、アサヒグラフ誌上に出しておりますように、崩れ行く火山灰堆積といふくらいの惨害を生じておりますので、そういう意味の保全をやつておきたい、こういうことであります。○委員長(廣瀬與兵衛君) ほかに御質疑ございませんか……。(笑) ○赤木正雄君 質問すればたくさんある……。(笑)

○委員長(廣瀬與元衛君) 速記を始め  
て……。  
○赤木正雄君 先ほど懇談中にしばしば台風の来襲を受け、雨量が極めて多いとおっしゃいましたが、その觀点から私は先ほど高知県の特に幡多郡の状況を欲しい、こう言つたんです。高知県は少くとも昭和七年頃までは日本で一番災害が多いんです。殊にあの幡多郡のごときは、どうかもう高知県からうのけて、愛媛県へ持つて行つてくれ、幡多郡で高知県の県財政は困つてしまふというほど災害が多かつたのである。決して高知県の災害が鹿児島、宮崎に劣つておりますん。それほど災害の多い県が、とにかく今日は始んど災害がなくなつてしまつた。そこの理由がどこにあるかということを私は後ほど示したいと思つて、それで高知県のあの状況を調査して欲しいと言つたのです。しばらく台風云々ということをおつしやることは、私は少し当らんと思つております、その点から。

す、そうした場合には、これは立法措置をとらなければならないという原則はわかります。同時に同じような、国全体に部分的な問題が起きた場合ですね、それもことごとくそうした処置をとつて、議員が立法化してそれを救済するという場合ですね、実際にそれ自身の立法権というものがありますから、これに対しても皆さんがあれ、丁度特別都市を指定したように、今特別都市が十数つかあるそうですが、何にもしておりますが、何にもしておりません、何にもしておりませんが、とにかく特別都市はできております、あれと同じような空文に屬するような法案を作りになることに賛成するかどうかの問題ですね、これにはあえて実は伺いたいんです。それがあります、あれと同じような空文に属し示されたところの事業計画の問題ですね、どうするかという具体的なものがどこに出てるんですか。その具体的な結論今申上げた災害に対する対策といふ観点ならば、あえてこの法案がなかなか公共土木費、公共土木のあの法律で以て十分にカバーできるんです。だからその方法をどうするかということをもう少し明確にこの法律でできれば、そのシラス土壤が、シラスが立派な農耕地になり、災害がなくなるのだからいうのでなくて、どういふ方法でこのシラスをするかという具体的な方法ですね、これを申しにならなければいけないかという点について御答弁がなければ結構ですし、御答弁よりも的確な資料で以てこういう工合にして実施するのだ、これにはこれだけ金がかかるのです。従つてその県のかたもお聞きえだと思いますが、一つこれをどうすればいいかという点について御答弁がなければ

かるのだ。只今四千万円の金があると  
いうことはこれは災害復旧の費用だと思  
います。そうでなくして、このシラヌ  
土壤に対してこうすればいいのだ、こ  
れだけ金がかかるのだということの考  
え方を持つて欲しいのです。本年度は  
又起債も相当出そうというようなこと  
も政府も言つていますから、その点に  
ついてもう基礎的な、基本的なです  
よ、何か計画というものを示して欲し  
いのです。この二点だけを説明議員に  
お願ひしたい、と思うのであります。

○衆議院議員(上林山榮吉君) 私から  
簡単にお答えいたしますが、第一点  
の、この法案ができるても空文になるよ  
うなことになると困るじゃないかと、  
極めて御理解ある御質問であります  
が、私どももそうならないよう努め  
しなければならないし、政府にも本法  
案成立の後には積極的に善撫してもら  
わなければならんと思らし、なんぜ  
く審議会のかたゞへにおいて、最も有  
効適切である方法により予算の算出も  
頼むわけにはならないんだ、こういうう  
ふうに考へているのであります。幸い  
にして今四千万円程度の予算を政府が  
組んでおりますが、これは主としてシ  
ラス地帯の農地関係の予算だ、こうい  
うふうに考へているのでありますが、  
こういう程度のものではどうにもなら  
ないんだ、こういうふうに考へて、こ  
の特殊の事情をどうしても認めてもら  
わないといふと、政府もよるとところが  
なければ予算措置も思うようにこれは  
してもらえないんだという意味で、お  
願いをしているわけであります。

それから第二点の事業計画といふも  
のを数字、或いは専門家の企画とい  
うなもののがなければならない、尤も

な御意見でございまして、この問題については、我々も常識以上のものを持つておるつもりではありますけれども、権威ある御質問に対しても答えるほどの資料を持つておりますが、これは併し立法の精神から言いまして、我々がただ地方的な感覚、地方的な実情だけから計画を立て、或いは県当局等が、地方団体等が計画を立てるだけでは私は万全を期することができないから、これらの意見も参考として微して行かなければならぬが、それよりも審議会 자체の活用と、いろいろの重点に置いて、これが企画或いは計画乃至は予算の必要量といふものを大局的見地から一つ策定してもらいたい、こういう趣旨を持つております。私どもの希望は勿論持っておりますが、希望を申上げることは遠慮いたしまして、そういうところに重点を置いて行きたく、まあ飽くまで審議会を中心主義で一つやつて行きたいというのが、まあ提案者等の意見であります。何か附加えられことがありますれば瀬戸山君からお願ひいたします。

とも二十幾つかの学者からの御調査、御研究を願つた報告書が出ておりまします。それを一々皆様がたのお手許に差上げることは不可能でござりますので、政府が調査いたしましたもののみをお手許に差上げておるわけでございますが、そのほかにも各関係省の技官、技術官がそれこそ數にいたしましては少くとも二百名ぐらいの人たちが調査をいたしております。そういうことで、建設省におきましても農林省におきましても、十分なるこれに対する考え方と計画を持つておるわけであります。その資料の第一頁、論旨の要約といたところに、最後の結論といなしまして「系統的に一貫した工事が必要で、この為の組織的体制が必要である。シラス台地の災害対策はシラス台地の土地利用合理化の基礎條件であり、之によりはじめ長い間停滞していた低い土地生産力の安定向上が期待される。」こういう一応の結論を出しております。こういうことで、今まで勿論これを地方といたしましても又国といたしましても放任いたしておつたわけではありますか、せんけれども、例えば開拓にいたしましても、それから道路の開鑿にいたしましても、河川の改修にいたしましても、こういうふらな系統的と申しますか、総合的な強力なる力を及ぼすに至つております。開拓にいたしますれば、食糧増産の關係で平地林を入れないでただ單に開墾、開拓をす

壤に対する灌漑排水その他の施設をいたしておらなかつたために、厖大なる崩壊、損害をこうむつて……これは写真に一部載せておりますので、その資料で或る程度は御了解願えると思いますが、そういうことであつては、食糧増産どころの騒ぎじやなくて、開拓、開墾された以上の大損害を生じておる実情であります。そういうわけでありますから、今日まで長い間専門家にも研究してもらつておりますし、この法律を、簡単な條文ではありますけれども作つて基礎を與えて、それによつてこの地方の災害の防除対策をして参りたいと、こういうのが私どもの念願であります。先ほど災害復旧でよろしいではないか、公共土木若しくは農地用関係の災害復旧の法律があるではないか、こういう御意見で、御尤もでありますけれども、あれとこれとは全然觀点が違いまして、あれは損害を持つておられますけれども、今日の財政状態ではそこまでは參つております。政府といたしましては、高率若しくは全額の補助を頂きたいという強い熱望が、あつた後にやつて頂く。勿論我々の地方といたしましては、高率若しくは全額の補助を頂きたいという強い熱望を持つておりますけれども、今日の財政状態ではそこまでは參つております。政府といたしましては今日の地方の実情を同情を頂いて、比較的高率のいわゆる国家の助成を頂いておりますが、その災害を復旧するという理念、觀点を一步進めまして、事前にそいう災害の起らない対策を立てて頂きたいい。その基本たる法律をここにお願いをいたしたいというのが私ども提案者の考え方でありますから、どうか一つ御了解を願いたいと思います。

が、私も同意見で、このシラス地帯は  
何も耕作物がないので、つまり災害の  
起らんようになりますから、  
そういう点は全く私も同感であります。  
それでこの農地の改良のことはさ  
ておきまして、直接の災害に対しても  
は、今まで宮崎、鹿児島であつた例を  
見ますと、運悪く砂防が一番大事なん  
です。そういう場合に、今一般の公共  
事業費の治水費の砂防でやつしているも  
のとは別の費目を取つて仕事をしよう  
といふお考えなのがありますか、或い  
は公共事業費で行なつてある、ひとり  
砂防のみならずそういう治水事業を特  
に鹿児島、宮崎のシラス地帯において  
たくさん工費をもつて行く、こういう  
お考えですか。この点どうですか。

○赤木正雄君 どうして私たちは今まで一緒にしても結論としては差支えないと。こういうふうに考えております。このような質問を申上げたかについて、実は本年度の治水費の中の砂防にて、昭和十三年に内務省の土木局で砂防事業はどういう仕事をするかと、これは省議で決定した項目があります。その中に地にり地帶も砂防でやる。実際新潟県、長野県、山形県、あれらの地にり地帶を砂防工事で仕事を起しまして、非常に成績がいいので、新潟県のごとき何ら砂防に関心がなかつたのに、砂防々々と言ひ出したのは、実はあの仕事をやつた結果なんです。ところがこれは建設省の砂防課の連中に、又地方の砂防に関係している人も、私は非常に責任があると思うのですが、衆議院のほうで地にり対策云々ということをされまして、砂防とは違つた仕事をするような感じを持たせてしまつたのです。飛んでもないことです。そんな馬鹿なことはないのだ。一旦こういう技術的のことは砂防でやるものだということを決定して、何も技術にはそういう退歩はあらうはずはありません。それに今になつてそれを砂防ではない、地にり対策事業といいますから、これを私は非常に不可解に思つておつた。その結果大蔵省としては今度地にり対策費用だけは……普通の砂防は三分の二が国の補助ですが、地にり費用は二分の一出したというのであり、費用は二分の一出たというのではございません。私はこういう結果が必ず来る、それで悪くすると、大蔵省は御承知の通り成るべく補助率の少いほうが好みます。

すからして、折角今まで長年苦労して起した三分の二まで砂防の補助を用いたものを、地にり費用は二分の一でやつてあるのじやないか、そういうふうにや来引落す危険が非常にある、そうすると今持込むとあなたのほうの県にしましても非常に大きな影響がある、だから小策を弄して大本を誤つてはいけない、そういう趣旨を私はやかましく言つてゐるのです。その結果といたしまして、この委員会でも建設省の河川局長に来てもらつて、そうして質問しました。つまり砂防地にりは治水に関係しないところであるのだと、無論治水に關係があるならこれは砂防費で取れますから、併しその実砂防費で計上しているのではないか、ところがこれは僅かな金で項目の出しようがなかつたから止むを得ずこうしているのだが、実際は治水に關係しない畑なんかが地にりしまして、そういうところでやるのだ、そういうふうな了解で一応は了解を得ているのです。これを仮に今申したその公共事業費で一括なさる場合に、そういう悪い例がありますから、端的に申すなら、公共事業費を植やしてあなたたちの御希望通りに仕事ができるならこれは一番いいと私は思つてゐるのです。

○衆議院議員(上林山榮吉君) 赤木委

員から非常に将来の問題について思い遣りのある御意見を拜聴したのでありまするが、私も全くそういうふうに考えておりまます。そこでできるものならば公共土木事業費の中に別枠を設けて、本事業の、本法案が目的としてお

る事業の達成を図りたいと、こういうふうに考える所以でありますけれども、それができない場合は御意見にありますと今持込むとあなたのほうの県にしましても非常に大きな影響がある、そうすると今持込むとあなたのほうの県にしましても非常に大きな影響がある、そういうふうにや來引落す危険が非常にある、そう

政府がどう考へておるかはわからませんが、補正予算等におきましてこれら事業を初め、その他の問題についてもしまして、この問題も検討をして、そうして政府に強く実現を要望したいと、こういうふうに考へておるということを附加えておきりますが、二十七年度においても我々

いたしましては本法案の目的とする

政府がどう考へておるかはわからませんが、補正予算等におきましてこれら

の問題も検討をして、そうして政府に強く実現を要望したいと、こういうふ

うに考へておるのでありますと、御意

見を尊重いたしまして私どもも努力をいたしたいと、こういうふうに考へて

おります。簡単でありますと、お答えに代えたいと思ひます。

○田中一君 農林関係と建設関係の政

府委員をお呼び願いたいです。

○衆議院議員(瀬戸山三男君) 今の田

中委員の仰せられること御尤もであります

が、これは余計なことかも知れませんが、政府の見解を正式に御披露申

上げておきます。これは衆議院の建設

委員会の第十三号の記録であります

が、三月二十五日の野田建設大臣の、

この法案に対する見解を質された答弁

を御披露申上げておきます。

「特殊土壤地帯に対しまして、適切

なる災害防除及び農地改良対策を樹立

して、この地帯の保全と農業生産力の

向上と図りたい、こういう御越旨か

らこの法案が生れておるのであります

が、この法案の適用されます地域につ

いては、私も幾たびか現地を訪ね

たことがあります。この土地

が非常に疲弊しております。全国で

も民度が一番低いかと思われる地域に

属しておりますというようなことがあ

りますして、何とかこの地方の生産力を

回復しまして、民生の安定を図る必要

があるということを今までもしばく

痛感いたしておつた次第であります。

今回こういう提案がなされましたこと

は、私は極めて時宜を得たことだと思つております。本法案が速かに成立いたしまして、その恩恵が、この特殊土

壤地帯の人々に行き渡りますことを念

願いたすものであります。」

かよろに建設大臣、建設関係の責任

るが、これらの諸君も特別の対策を講ずる必要があるんだと、こういう意味で賛成をしておる状態でありますので、政府の責任者は勿論本法案に賛成をしておるということを附加えておきたいと思います。

○田中一君 農林関係と建設関係の政

府委員をお呼び願いたいです。

○衆議院議員(瀬戸山三男君) 今の田中委員の仰せられること御尤もであります

が、そのくらい大臣が考へておるなら、ここではつきりと伺いたいと思うのです。従つてその若し今……速記をとめて下さい。

○衆議院議員(瀬戸山三男君) これが余計なことかも知れませんが、政府の見解を正式に御披露申上げておきます。これは衆議院の建設委員会の第十三号の記録であります

が、三月二十五日の野田建設大臣の、

この法案に対する見解を質された答弁を御披露申上げておきます。

「特殊土壤地帯に対しまして、適切な災害防除及び農地改良対策を樹立して、この地帯の保全と農業生産力の向上と図りたい、こういう御越旨からこの法案が生れておるのであります

が、この法案の適用されます地域につたようであります。三年前に私ども強くこれを要望いたしまして、政府に取上げてもらつて、これが調査の費用を組んでもらつて、それより調査した結果を先ほど瀬戸山議員から説明があつたわけあります。そのときの報告の内容は経済安定本部の資源調査会の会長である周東英雄君に対しまして報告があつたのでありますと、政府定本部給與である吉田茂君に対しまして報告があつたのであります。そこでできるものならば公共土木事業費の中に別枠を設けて、本事業の、本法案が目的としてお

それ、検討をいたしましたのであります

○委員長(廣瀬與兵衛君) 速記をとめて下さい。

○委員長(廣瀬與兵衛君) 速記をとめ

て下さい。

午後零時七分速記中止

午後零時二十五分速記開始

○委員長(廣瀬與兵衛君) 速記を始め

て。明日は午前十時より委員会を開会いたします。議題は本日と同じものを

いたします。

本日はこれを以て散会いたします。

午後零時二十六分散会

大臣として委員会において答弁を頂いております。農林大臣、農林関係、特

に農地局であります。この法案がで

きることを非常に歓迎いたしておる。

これは事実でありますから御披露申上

げておきます。

○田中一君 私は、今上林山、瀬戸山

両氏からお話をあつたのであります

が、そのくらい大臣が考へておるなら、ここではつきりと伺いたいと思う

のです。従つてその若し今……速記をとめて下さい。

○衆議院議員(瀬戸山三男君) これが余計なことかも知れませんが、政府の見解を正式に御披露申

上げておきます。これは衆議院の建設

委員会の第十三号の記録であります

が、三月二十五日の野田建設大臣の、

この法案に対する見解を質された答弁

を御披露申上げておきます。

「特殊土壤地帯に対しまして、適切

なる災害防除及び農地改良対策を樹立

して、この地帯の保全と農業生産力の

向上と図りたい、こういう御越旨から

この法案が生れておるのであります

が、この法案の適用されます地域につ

いては、私も幾たびか現地を訪ねたことがあります。この土地

が非常に疲弊しております。全国で

も民度が一番低いかと思われる地域に

属しておりますというようなことがあ

りますして、何とかこの地方の生産力を

回復しまして、民生の安定を図る必要

があるということを今までもしばく

痛感いたしておつた次第であります。

今回こういう提案がなされましたこと

は、私は極めて時宜を得たことだと思つております。本法案が速かに成立いたしまして、その恩恵が、この特殊土

壤地帯の人々に行き渡りますことを念

願いたすものであります。」

かよろに建設大臣、建設関係の責任

昭和二十七年四月十七日印刷

昭和二十七年四月十八日発行

参議院事務局

印刷者 印刷所